戦闘機パイロットの憂鬱

Missty

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

戦闘機パイロットの憂鬱

【Ｎコード】

Ｎ０７４５Ｃ

【作者名】

Ｍｉｓｓｔｙ

【あらすじ】

国民ぎしりえない裏の物語（実際に有り得ない物語）

始末書とペン（前書き）

日本国憲法第９条にぎりぎり引っ掛からないようにかいたつもり憲法に違反しない小説てどんなのだろう。

始末書とペン

はぁ、なんて
「何なんだ！あのやろう！」
叫びながら近くにあった清掃用具入れをけっ飛ばす女性がいた
優雅な日は後れそうにないなぁと思う俺がいた

俺は、赤松良樹（あかまつよしき）Ｆ－１５Ｊのパイロットである。ナビだがな
先程、けっ飛ばして痛そうに足を押さえている女性が俺の相棒、御崎由紀（みさきゆき）自衛官初の戦闘機パイロットの一人である
話によるとＢ（防衛大学校の略）を首席で卒業、救難ヘリに成りたがったらしいが、タクイツした身体能力によっていまでは日本の主力戦闘機パイロットの一員である
しかしながらだ、かなりの行動派らしく幾つもの常識外れの事をしてくださる
今回もその一つで、俺と彼女と共に小言を聴いてきたのだ
「落ち着け、御崎」
「落ち着いてられるっかつーの！ソ連野郎、俺に手話で『俺と一発やらないか』って言ってきたんだぞ！」俺たちは先程までオホーツク海上空にいた。
ロシアの定期便、いわゆる月に一度偵察に来るロシア機に無線ではなく手合図（しゅわ）て語ってきた
それに、切れた御崎はあろうことかロシア機の背後に回りミサイルとまでは行かないが２０ミリ機関砲を直撃ぎりぎりにお見舞いしたのだ
それだけならいいが、オープン回線で
「次は貴様のケツにお見舞いしてやる」
なんて言ったもんだから、上層部が慌て御崎を還したのだった。まぁ、俺もすっきりしたからいいが

にしても、少しやりすぎかなと思うのだが
「何か文句あるのか」
「いーや、ないよ」
「有ります。って顔だが」さすが相棒、分かっていらっしゃる
「何で、俺も始末書なのかなとね」
「それは、俺達運命共同体だからな。連帯責任だ」
また、理不尽な
「まっ、いいけどね。楽しいのは、何時でも歓迎だし」
くすっと、笑う御崎
この時の彼女が、かわいいと思うのは俺もだけかもしれん
「でも、罰てアラート待機を増やされたのは痛いな。小屋の雑誌は読み終えちまったし」
「漫画でも持ってくるか？」
「な、何！御崎お前漫画読むのか！」
「失敬な！使い道のない金をどう使うかは勝手だろ」
いや、そういう事ではなくだな
確かに、使い道がないわけではないが
給料が良い分、食事は隊員食堂（１食２５０円）朝と夕は自炊が多いため
それ以下になる。寝泊りする場所も月６８００円と安く
そのほかは光熱費ぐらいだろう
だから、お金の使い道がほとんど無いのだ
そんなことを、言っていたら事務所まで着いてしまい仕方がなく、パソコンを起動させる。始末書を書くために
「お決まりのフォームができちまったな」
「そういうな、１枚で済むんだから安いもんだ」
しかしながら、この御崎由紀という人物はすごいもんで
さすがに、首席で卒業した人物だとわれながら感動してしまうほど博識だったりする

その時
「いい身分だな、御崎殿」
「始末書か？物好きだな」
こいつらは、うちの飛行隊の中で対立関係にあるグループの一つだ
「・・・」
完全に無視をきめこむ御崎だが
こいつにも限界がある
「手伝ってやろうか？ハハハ」
バキっ
と、ボールペンが片手で握り折った
それに驚く二人に俺は
「お前達の息子があんな風になる前に帰りな」
耳元で囁いた
「ちっ行くぞ」
そう言って立ち去ろうとしたとき
御崎がたちあがるが、俺が止めた
（よせ、おまえがやったら死人がでる）
アイコンタクトで語る
それをしってか立ち上がった体を座らせた
「アイツ、コロス」
だからな、御崎よ。あんたがやったらかわりのやつがいないだろ
待機がふえるしな
そればかりは、勘弁だ
「…」
黙って折れたペンを見つめていた
「ん？どうした」
「…私のペンが、折れちゃった」
泣きそうな声を出す御崎
「はいはい、替わりはあるだろ」
その言葉か失言だった

「貴様！長年付き合った戦友であるペン君を侮辱するきか！」
やば、こいつ物の愛護心すさまじかったんだ
なにせ、全ての物に名前つけてるしな
「しないしない、ペン2型がいるだろ」
「2型は、まだ新兵だ。この難儀な任務（しまつしょ）を成し遂げられるか。不安だ」
オイオイ
「可愛い子には旅をさせろっていうだろ。大丈夫だって」
「そうか、ペンには二階級特進だ。あとで舞台喪にしてやるからな」
ムリだとおもうぞ

始末書とペン（後書き）

次回　曲芸飛行と記念写真をおおくりします

曲芸飛行と記念撮影（前書き）

言い訳はしない。
後悔は、したくない。
あれ？

曲芸飛行と記念撮影

「うぇっ」
気持ち悪そうにしている相棒である御崎
これでも一応女性自衛官であり戦闘機パイロットであるが、気分がすぐれないらしい
「どうした？」
とりあえずわけをきこう
「き、気にするな、只の二日酔いだ」
おいおい、フライト前日は禁酒だぞ
「酒飲んだのか！」
「飲んだ。“二日前”に」
オェって言っている、ご本人
フライトはだめかとおもっていたが
「ん？二日前って言ったか？」
「言った、ペン曹長の部隊葬でな」
おぃ待て！まだ、悔んでいたのか！
ペン曹長よ、安らかに眠れ…
いや、そういうことではなくだなっ！
「まぁいいが、リバースだけはするなよ」
一応、忠告しておこう
「分かっている、あんなせまっくるしい所でマスクにはくなんてできやしない」
本当にわかってるのか？こやつは
４グループと、３グループ（私たちのグループ）の受け継ぎ（建前）をする
「笹本一等空尉ほか７名は、これより下番します」
「御崎一等空尉ほか５名は、これより上番します」
敬礼し、これで受け継ぎ業務は終わる

「…分かれ」
普通なら、注意事項とか言うのだが
このお方（相棒）はそんなことなどするような人柄ではない
アラートいわゆるスクランブルがかかれば飛び出していき
けんかを売っては帰ってくるのが常識名人なのだ
なので、相棒の事を聞くやつなんて物好きなやつだけなはずだ

〈中部防空指令所　ＤＣ〉
「中国地区から未確認航空機発見　エリア７４－Ｃ２　進行方向１６０　２８０ノット、ＡＤＩＺまで３０マイルＳＩＦ反応なし、特Ｍ反応ありません。」
上級指揮官が液晶コンソールを覗く
「了解！百里０１スクランブル」
「ラジャ、ホットスクランブル百里０１」
無線操作盤をタッチし百里に緊急即時電話に繋げる
「百里０１ホットスクランブル、エリア７４－Ｃ２　イーグル二機発進。武装Ａ１　識別信号８４４７」
〈百里基地指令受領所〉
「ラジャ！０１スクランブル　クリアータキシーＫ１－Ｔ３　識別信号８４４７」

カバーて覆われた赤く点灯しているＳ／Ｃと書かれたボタンを押す
ハンガー内に赤い赤色灯が光り、ベルがなり響く
『ホットスクランブル　ホットスクランブル』
俺は読んでいた漫画をソファに投げ捨てダッシュで戦闘機があるハンガーに向かう。整備員も慌ただしい
うちが乗るのは、日本主力戦闘機Ｆ－１５ＤＪで複座式だ。俺はナビで主役は俺の相棒
「フラップよし、機内チェック、ＳＩＦ、ＡＤＤ、ＦＣＳ、ＩＬＳ、

ＥＣＳ、ＦＣＳよし」
相棒が次の作業に入る
「第１エンジン始動」
整備員にジェスチャーサインを送ると
エンジン回転数が４０００回転まで上昇する
「第２、グリーン。ハッチ閉めよし」
整備員がタキシング準備よし。と管制塔に連絡を入れる
『ホットスクランブル、フィリア０１ランウェイ２４　テイクオフ』
民航兼用の場合、着陸及び離陸は中断され直ちに滑走路から出なくてはならない
今現在あいているのは２４番滑走路のようだ

「フィリア０１ラジャ。スクランブルテイクオフ」
アフターバーナーを焚きながら一気に上昇する
『離陸を確認した、周波数Ｃに変更しＤＣの指示を仰げ』
「了解、ＤＣに周波数を変更する」
飛行情報や火器管制をつかさどるのは股下にあるメインコンソールで行う
無線も同様だ
「こちら、フィリア０１どうぞ」
『こちら中部ＤＣ周波数変更を確認した。方位３４５に変更せよ。不明機へのコンタクトは約８分後』
「フィリア０１了解」

７分ほど飛んだときだった
小さな虫程度だが、何か見えた気がした
「おい、前方２時の方向に何か見えた気がした」
何も答えずに、相棒はそちらへ機種を向ける
やっぱり、ビンゴだ。後ろから機種と国籍を確認する
機種は、Ｙ－８　ＡＥＷ　国籍は中国のようだ

「こちらフィリア０１　機種Ｙ－８　ＡＥＷ　国籍中国」
『了解、左旋回方位２４０への変更を通告せよ。領空まで１５マイル』
「了解」
コンソールにて、世界共通周波数に切り替える
「こちら、日本国航空自衛隊である。日本国領空まで１５マイルである。
貴機が日本国領土に入る許可は下りていない。直ちに左旋回し
方位２４０へ向かえ」
まったく応答が無い
「こちら、フィリア００１一回目の通告反応なし」
『了解、引き続き注意を促せ。領空まで１０マイル』

「聞いてんのか?！もうすぐ、日本領空だ！引き返せ！」
しかし、三度目も無視された

『こちら、ＤＣ。領空進入。領空侵犯機と判明した、警告を実施せよ』
「了解、警告を実施する」
「警告する。繰り返す警告する。貴機は日本土領空を侵犯している、
直ちに引き返すか、われの誘導に従い指定した滑走路へ着陸せよ。
繰り返す、
貴機は日本土領空を侵犯している、
直ちに引き返すか、われの誘導に従い指定した滑走路へ着陸せよ。」
その警告を聞こえたのか、左旋回を始めた
「記念写真撮りたいとおもわない?」
あ?まぁ、写真機は持っているが
「ちょ、お前何を」
ぐぁっと、急に１８０度反転して逆さ状態になった

おいおい
そのまま、スライドするように中国機へ近づく
「あー。すまないが、中国機。そのままの姿勢で頼む。俺は落ちたくない」
何を言っているのかわからない様子を上から覗き込みながらビデオ撮影をしていたとき
一人のパイロットが気づき急に下降を始めた
『領空を離脱した。任務終了。帰還せよ』
DCから帰還命令が下る
「了解、帰還する」

＜百里基地　第7航空団司令室＞

「御崎一尉、この記録に対し弁解の余地を与えよう」
「いいえ、ありません。」
おいっ！無いのかよ！
「そうか」
「あえて言わせていただきますと、中国との友好行為です
その答えに、指令官は目をまるくし笑いを堪えていた。
「そ、そうか。友好活動か。成程。分かった、今回の行為は不問としよう」
指令官の判断に驚きを隠せない内部監査官は反論する
「し、指令」
「なんか、文句があるかね？以上だ」
指令官室から出る寸前
「もう少し、手のこったことしたまえ」
ニヤリと笑い、部屋から出ていった。

この事件を『御崎写真撮影事件』と言われている。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0745c/

戦闘機パイロットの憂鬱

2010年10月11日18時09分発行